

(様式 1)

[年度] 平成30年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] スターチスの新品種育成

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター育種部

[連絡先] 0738-23-4005

[専門分野] 花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

本県のスターチスは、出荷量が全国1位の品目で日高地域を中心に産地が形成されています。近年燃油価格が高騰する中で、加温コストを削減するための低夜温管理が普及し、需要期である3月までの収量が減少することが問題となっています。そこで、低夜温管理栽培においても収量性が高い品種の育成に取り組みました。

[研究の成果]

1. 低夜温管理で収量性の高いブルー系品種‘紀州ファインライラック’（育成系統名:13B11）と‘紀州ファインオーシャン’（育成系統名:15B1）を育成しました。
2. ‘紀州ファインライラック’は、がく色が淡紫色で、花房は丸味がありやや小さめです（図1）。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりも短く、茎径もやや小さいですが、花房数、分枝数は対照品種と同程度です（表1）。年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.4~1.9倍と非常に多いです（図2）。
3. ‘紀州ファインオーシャン’は、がく色が淡青紫色で鮮やかで、花房が大きく、ボリュームがあります（図1）。切り花長は対照品種の‘アナブルー’や‘紀州ファインラベンダー’よりもやや短いですが、花房数、分枝数は対照品種に比べて少ないですが（表1）、年内早くから採花でき、切り花本数は対照品種の1.2~1.7倍と多いです（図2）。



図1 ‘紀州ファインライラック’と‘紀州ファインオーシャン’の栽培時の草姿と花房

表1 ‘紀州ファイライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花品質

栽培年	系統・品種	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花房数 (個)
2016年	紀州ファイライラック	72.2	5.8	6.7	11.9
	紀州ファインオーシャン	71.6	5.3	5.2	8.2
	アナブルー	87.1	6.5	6.0	11.5
	紀州ファインブルー	84.1	6.1	6.0	10.4
2017年	紀州ファイライラック	77.9	5.9	6.7	12.5
	紀州ファインオーシャン	83.1	5.9	5.7	9.2
	アナブルー	91.1	6.6	6.5	12.8
	紀州ファインラベンダー	88.4	6.3	6.7	12.0
	紀州ファインブルー	96.3	7.4	6.3	11.2

注)2016年:9月7日に定植、切り花調査は10月31日～2017年3月16日まで 2017年:9月6日に定植、切り花調査は11月8日～2018年3月14日まで  
定植から2週間株養成のため抽苔花茎を除去、冬季加温設定温度1℃で管理

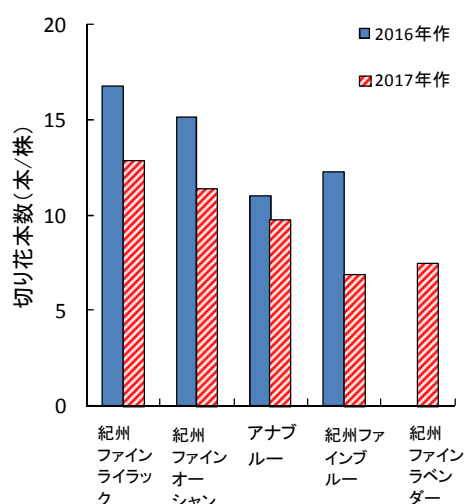


図2 ‘紀州ファイライラック’と‘紀州ファインオーシャン’および対照品種の切り花本数

注)栽培概要および調査期間は表1と同様

[成果のポイントと活用]

1. スターチス‘紀州ファイライラック’と‘紀州ファインオーシャン’は平成31年3月に品種登録出願し、令和元年6月に出願公表されました。
2. スターチスの種苗の増殖は和歌山県が許諾する種苗生産業者に限ります。
3. 栽培は和歌山県内の生産者に限ります。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成28～30年

研究担当者：宮前治加、小川大輔

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可